

平成30年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	岡田健一・金濱元一・早川昇三・古澤孝市・南川達彦・黒光ひさ・鈴木和彦
調査実施年月日	平成30年10月31日
調査先 自治体名等	石川県小松市
調査項目	サイエンスヒルズこまつについて
調査目的	ひとつものづくり科学館について
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口: 108, 692人 世帯数: 43, 327世帯(平成30年9月1日現在) 行政面積: 371. 05km²</p> <p>2 視察内容 小松市では、サイエンスヒルズこまつのひとつものづくり科学館について視察を行った。</p> <p>はじめに、サイエンスヒルズこまつは「未来を創るひとつづくり、ものづくり」をテーマとし、ひとつものづくり科学館とこまつビジネス創造プラザ(市産業振興センター機能)の2施設で構成され、ひとつものづくり科学館は「ものづくり精神の継承と科学技術の啓発」をコンセプトとして、ものづくりの現場と科学の原理を融合した体験型展示場「ワンダーランド」や、日本最大級のドーム型3Dシアター「3Dスタジオ」などが人気を集め、子どもから大人まで科学を通じてものづくりが好きになるような体験・イベントを提供しているとのことであった。</p> <p>経緯については、平成21年4月コマツが平成22年3月末をめぐりにコマツ小松工場を閉鎖すると発表、平成22年2月小松駅周辺活性化会議の設立、以降計4回の会議を経て、小松市長に活性化会議での議論をまとめた「提言書」を答申、平成24年9月起工記念セレモニー、平成25年12月一部オープン、平成26年3月全館オープンとのことであった。</p> <p>その他、①構造・規模: 鉄筋コンクリート造、平屋一部地上2階建て、最高高さ約12m、②総事業費: 約3,474百万円(内国庫支出金1,169百万円)(補助金: 国土交通省所管、社会資本整備総合交付金等)、③運営方式: 小松市直(教育委員会所管、館長(教育長)、副館長、正職員: 7名、他臨時職員8名、退職教員4名、計21名)等の説明を受け、その後、館内視察を行った。</p>
感想(まとめ) 本市へ生かせること 等	<p>建築の外観は、地形と屋根を一体化し、屋上緑化を図った外観は丘と建築を融合したイメージとなっており、他にはないデザインで太陽光発電、風力発電も設置していた。また、来館者は年間平均約12. 5万人であり、約5割が学校の長期休日で利用されているとのことであった。国内最大級の3Dスタジオでは年間約1, 000回の上映で科学番組や自主製作したものを上映し、イベントにはJAXA(宇宙航空開発機構)の方の講演等も企画されていた。小松市では計画当初よりコーディネーターとして国立天文台やJAXAの方々に携わって頂き、名誉館長には漫画家松本零士氏が就任していた。</p> <p>室蘭市においても展示、体験型を基本に、環境科学館としての特徴や、様々な機関、団体、著名人との係わりを工夫する必要があると感じた。また、光学機器を使用するプラネタリウムに3D映像も活用できるよう検討していくことも、魅力ある施設として、数多く来館して頂き教育の場、観光等で利用される施設になるのではないかと考えた。</p>